

百人一首抄

上

士

第百四十一函

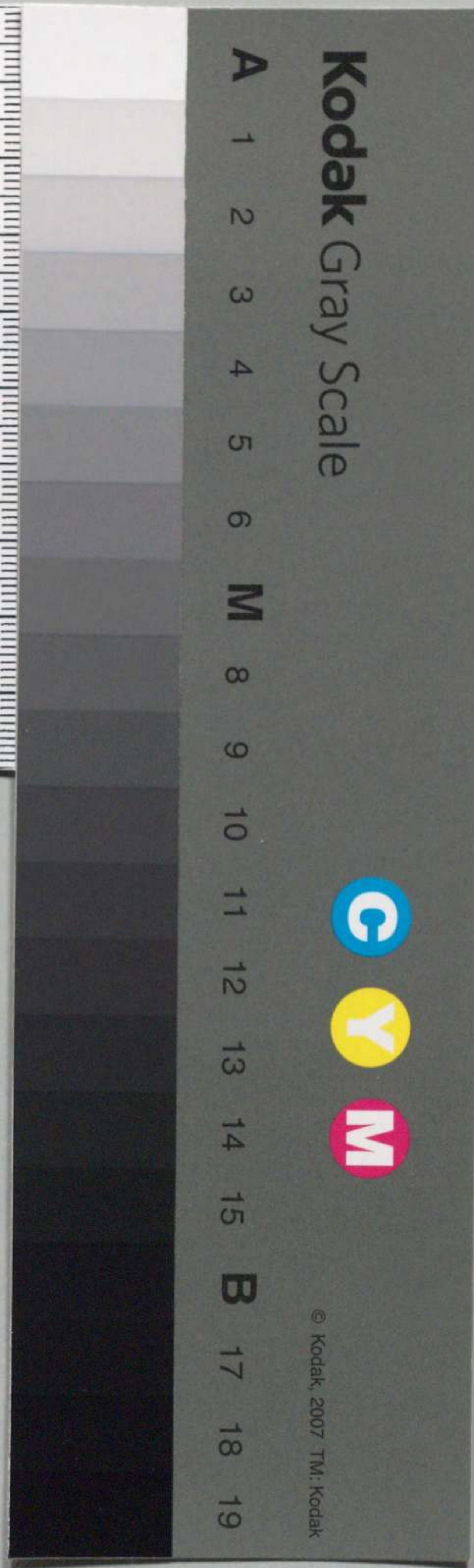
27-6

庫文官政太			
三	特別	和	門
册	三二三四	書	類
架	茅子七番	函	號

内閣文庫			
番號	和	32304	
冊數		3 (1)	
函號	持	27	6

特 27-6

共三



と柳ヤナギをまきしうらけまのせはれぬ家流イナと夜ヨのり
 ありてゆく勢イカリはぬり天アマの如ごとく山ヤマ天照太神アマテラスオホカミの
 の勢イカリ戸ドぬひさあゆむと給タマハひとれもて児コを根ネ尋ミ
 と始ハジメとして八百翁ヤチヒツツノカミ神カミ示シれしとい山ヤマ乃ノ柳ヤナギと
 さらしてそ介サカイ事コトありそ乃ノらら給タマハ戸ドをひしぬを
 二夜フタヨひ男オトコと照テラし給タマハ也ヤとれはくもと母ハハありしるを
 照テラくもよ照テラしとと家イヘといふ心ココロとあめくもあ乃ノ夜ヨとぬ
 きての白シロふじ山ヤマのみくぬを白シロ妙タカラの夜ヨといぬをよ
 や夜ヨと白シロ死シもなれんかく乃ノとくいつりまう下シタ

柿木入麿カキノキノト 天智天皇御時人令チと 教光御人アツミツノミコ 念ネン念ネン云クモ

大史姓オホシノナリ柿本カキノモト名人メカシ九蓋クサシ上世ウヘノヨ之ノ身ミ人ヒト也ナリ仕持シテ統ツク文武ブンブ之ノ
 聖朝セイチャウ遇ユ新田ニフタタ高市タカチ之ノ皇子ミコ云クモ

是コノ曳ヒキ乃ノ山ヤマを以もつ尾ビのちり尾ビのちりよと名ナとらありん

いふを別わかりり義タカシ取トルどい父サ母ハハ形カタありわひはれと
 折オリひしるも取トル母ハハちらふとるものなれとありたのとい
 ひくむぐく一ヒト取トルをといぬうと海ウミの海ウミどもおさる
 る此ココ取トルのなぐとるり詞コトバのけい妙タカラありて風フウ接ツグを長ナガ
 しく一ヒトのふあとい服ヒラキといはく敷シ返ヘ吟ウタしてそれ
 味アジ紙シ心ココロにひく一ヒト無ム上ウヘ部ベ極キョクのちやゆん人ヒト内ウチのち
 情ナリをむく一ヒトのちあめく氣キ氣キをのけくそれん
 まらうして然シカドモ乃ノ身ミ仙センの徳トクありた今イマれ同ドウは独ドク者モノと

思ひ入く吟味とへー海色の面影もよもや
おぼろげなも河舟のこころ影とてもさ海うらと
ゆいのかさるるを寄美するふみそ赤人のあとし
な今やまよふあやしくもさりしきり新あはれ
也れい雪ハかりはくとしそ錦様おさり影ー菊さ
妙の理と思ふべー

猿丸大吏

古傳云官姓時代等不知之

威系圖云 用明天皇 聖德太子 山背大兄王
弓削王 狹谷云 天武の子弓削道鏡と号すとこ
け統不妻おたり聖徳太子の弟妹弓削王と猿丸大吏

と号しーゆりと道流法師とつらら削よはて
思ひあやまれぬる人ー又下野國業師と云ふよ
流さるゝとろくあまも道流もや也流鬼の町下野
お業師との別当ありしははるる也狹谷よ
はるかあやまらつら鴨長明方丈紙を江本田より携
丸大吏が旧注ありき

わく山小みちゆきおぼく麻の故きく時をたはうけい
い方お真山よしくみみりー丁心也もとの抄示りや
これ紅葉おちりてわく山の木葉ちう時おさるわが
このそくあつとひなりあれあやまらねりもみり
ちわく山小みちゆきおぼく麻の故きく時をたはうけい

もせはふれ勢のりまをど大にせりありあれんか
 家満ミエミツ天とをそりり形と家持が家取ヤカモチガアーヤお起オキおこし
 月もさくさくを天よむうひく吟モノしひりりお
 まりおねの天よ満ミチくおとて服カミあよありくおね
 かわくを腰セイヤ取のき天よ形ううおねのみちうおと
 んお家やうまい御形テイりひきお流や紙キ流みユみ
 くも形くをまもくれうおねお大よみく
 しくぬれ深ヒシ取ヤるふれたさおとくあの方と思
 く感カン悟セうたりあうんうとわり又勢カサキ乃捨シお
 さうのいんか大すあくさけて又お事りあうや
 さらやうわうふりり人の性シもあされりよをり

仰りるうたわうりゆきどわり糸紙キ形カでもあうわ
 りやうあうさく秘ヒ説セツおせと来代の人かあさけは
 形カりたわうりゆりまり
 太物オト物モノ流ク云ク泉イ大イおひりりのおけいこのへ海ウミをシ行
 へりうをみめて酒サケをとりおひておねうあを
 て捨シくりも形く物モノまくら形くまうりきて
 くお物モノ一ヒト捨シへりあうりあうんまうまうあて
 かりしお家さうくお壬ミ生フ忠カ解カりミおわりり
 のりおねりり形くひさくはうて捨シせうそこ
 中ナカらううたのまうせうりりのおねとをねんお
 梅ウメこわ家あさうふりそとる人の行とりわり

の可くわそふたつとてうねおひとよき
海よりわきひまてふおもたうのさたふ今も海く終形
とまりとまり終る之じふもあおの終揚と國
あやゆし

安倍仲磨

孝元天皇御跡子太彦命後金槍部一名仲磨一統内

磨古傳云躬守子中務大輔從三位安倍朝衡息正五位

又云大納言朝平男カ

私曰此亦義共以不審系圖等不載之又從三位朝衡不

納言朝平亦不補任不見旁以不詳不用

元正天皇靈龜二年八月廿三日為學生渡唐朝賜姓朝

臣又嗚嗚天皇御宇大弁宰相藤常繼重而被遣唐朝

于時歸朝云此義我不審

自元正天皇靈龜二年至嵯峨天皇御位之始及百年

如何又或抄仲九遣唐使桓武天皇御時云是又不審

江談才三云仲九讀歌事靈龜二年為遣唐使仲九渡

唐後不歸朝於漢家樓上餓死吉備大臣後渡唐之時

見鬼形于吉備大臣言談相教唐土事件仲九不歸朝

人也讀哥雖不可有有禁忌尚不伏如何

或記曰仲磨者愛感星分身也降和國補正道到異國

天文陰陽異朝人怖惡之令禁固而遂殺仍為靈鬼伏

の形カタチ、形カタチりてん法シホダを任トシせしむるは文シホダ蓋シホダ其シホダ年シホダの形カタチ、形カタチりてん法シホダを任トシせしむるは文シホダ蓋シホダ其シホダ年シホダ

小野コノ小町コマチ 出羽デワイ郡クニ司シ 小野コノ當澄トウジヨウ女メ常澄トウジヨウ

或アル説セツ出羽デワイ郡クニ司シ 小野コノ良實リョウジツ女メ 又マタ常澄トウジヨウ女メ

三光ミツミツ院イン部フ洗セン當澄トウジヨウ女メ 仁明ニメイ時トキ入イ兼和ケンワ之ノ比ヒ

津ツ建ケンくク兼ケン之ノ小野コノ小町コマチがガるルはハさサかカてテさサらラりリ

どドおオろロへエらラさサはハ玉タマ造ゾウといイふフ文シホダみミくクらラあアれレぬヌ

見ミ法シホダ約ヤクくクきキわワとト云クモ洗センわワまマでデもモさサらラ野ノ大ダイ師シのノ死シ

れレ目メ録ロクめメいイわワりリ太タイ師シとト兼ケンわワのノさサめメふフくクれレ流リウへエ

りリ也ヤ何ナニがガさサらラりリ形カタチらラりリをヲれレくクちチれレりリ也ヤ於オ於オ於オ

はハらラりリ

形カタチらラりリてん法シホダを任トシせしむるは文シホダ蓋シホダ其シホダ年シホダ

小町コマチ今イマあアらラりリのノ方カタチ形カタチらラりリ流リウ集シツれレ教カウふフらラ

形カタチ也ヤいイ方カタチめメのノ兼ケン重ジュウのノ洗センわワりリをヲれレくクちチれレりリ也ヤ

いイ形カタチもモ方カタチとトあアらラりリとト行ユクひヒとトあアらラりリとトあアらラりリとト

あアらラりリとトあアらラりリとトあアらラりリとトあアらラりリとトあアらラりリとト

あアらラりリとトあアらラりリとトあアらラりリとトあアらラりリとトあアらラりリとト

あアらラりリとトあアらラりリとトあアらラりリとトあアらラりリとトあアらラりリとト

あアらラりリとトあアらラりリとトあアらラりリとトあアらラりリとトあアらラりリとト

あアらラりリとトあアらラりリとトあアらラりリとトあアらラりリとトあアらラりリとト

あアらラりリとトあアらラりリとトあアらラりリとトあアらラりリとトあアらラりリとト

の奇ひきり延^{ノヨコト}延^{ノヨコト}事^{ノヨコト}ハナニ感^{ノヨコト}めく^{ノヨコト}沙^{ノヨコト}流^{ノヨコト}後^{ノヨコト}あり^{ノヨコト}輝^{ノヨコト}
 去^{ノヨコト}又^{ノヨコト}年^{ノヨコト}の^{ノヨコト}比^{ノヨコト}之^{ノヨコト}廿^{ノヨコト}二^{ノヨコト}日^{ノヨコト}未^{ノヨコト}也^{ノヨコト}たり^{ノヨコト}海^{ノヨコト}を^{ノヨコト}是^{ノヨコト}も^{ノヨコト}て^{ノヨコト}知^{ノヨコト}
 久^{ノヨコト}人^{ノヨコト}一^{ノヨコト}鴨^{ノヨコト}を^{ノヨコト}明^{ノヨコト}が^{ノヨコト}る^{ノヨコト}又^{ノヨコト}紀^{ノヨコト}云^{ノヨコト}葉^{ノヨコト}付^{ノヨコト}の^{ノヨコト}末^{ノヨコト}と^{ノヨコト}は^{ノヨコト}は^{ノヨコト}は^{ノヨコト}輝^{ノヨコト}
 此^{ノヨコト}舞^{ノヨコト}の^{ノヨコト}終^{ノヨコト}紙^{ノヨコト}と^{ノヨコト}す^{ノヨコト}ひ^{ノヨコト}と^{ノヨコト}又^{ノヨコト}同^{ノヨコト}書^{ノヨコト}明^{ノヨコト}抄^{ノヨコト}お^{ノヨコト}飯^{ノヨコト}の^{ノヨコト}厨^{ノヨコト}乃^{ノヨコト}
 何^{ノヨコト}林^{ノヨコト}と^{ノヨコト}す^{ノヨコト}い^{ノヨコト}じ^{ノヨコト}う^{ノヨコト}の^{ノヨコト}野^{ノヨコト}丸^{ノヨコト}り^{ノヨコト}か^{ノヨコト}の^{ノヨコト}ま^{ノヨコト}も^{ノヨコト}れ^{ノヨコト}た^{ノヨコト}と^{ノヨコト}う^{ノヨコト}
 か^{ノヨコト}う^{ノヨコト}ん^{ノヨコト}と^{ノヨコト}う^{ノヨコト}あ^{ノヨコト}に^{ノヨコト}非^{ノヨコト}と^{ノヨコト}取^{ノヨコト}り^{ノヨコト}て^{ノヨコト}任^{ノヨコト}と^{ノヨコト}は^{ノヨコト}さ^{ノヨコト}る^{ノヨコト}べ^{ノヨコト}う^{ノヨコト}
 そ^{ノヨコト}う^{ノヨコト}ら^{ノヨコト}う^{ノヨコト}は^{ノヨコト}ふ^{ノヨコト}り^{ノヨコト}お^{ノヨコト}み^{ノヨコト}ま^{ノヨコト}ハ^{ノヨコト}昔^{ノヨコト}深^{ノヨコト}草^{ノヨコト}の^{ノヨコト}み^{ノヨコト}を^{ノヨコト}此^{ノヨコト}
 使^{ノヨコト}母^{ノヨコト}と^{ノヨコト}れ^{ノヨコト}お^{ノヨコト}も^{ノヨコト}る^{ノヨコト}ひ^{ノヨコト}は^{ノヨコト}高^{ノヨコト}罪^{ノヨコト}系^{ノヨコト}負^{ノヨコト}れ^{ノヨコト}あ^{ノヨコト}お^{ノヨコト}も^{ノヨコト}と^{ノヨコト}て^{ノヨコト}
 か^{ノヨコト}よ^{ノヨコト}れ^{ノヨコト}び^{ノヨコト}う^{ノヨコト}書^{ノヨコト}乃^{ノヨコト}る^{ノヨコト}ま^{ノヨコト}く^{ノヨコト}面^{ノヨコト}紙^{ノヨコト}と^{ノヨコト}う^{ノヨコト}ひ^{ノヨコト}て^{ノヨコト}り^{ノヨコト}
 と^{ノヨコト}あ^{ノヨコト}て^{ノヨコト}約^{ノヨコト}き^{ノヨコト}と^{ノヨコト}ま^{ノヨコト}と^{ノヨコト}
 或^{ノヨコト}抄^{ノヨコト}云^{ノヨコト}或^{ノヨコト}人^{ノヨコト}の^{ノヨコト}一^{ノヨコト}ハ^{ノヨコト}古^{ノヨコト}物^{ノヨコト}は^{ノヨコト}今^{ノヨコト}飯^{ノヨコト}の^{ノヨコト}舞^{ノヨコト}と^{ノヨコト}う^{ノヨコト}ま^{ノヨコト}り^{ノヨコト}後^{ノヨコト}也^{ノヨコト}と^{ノヨコト}

或^{ノヨコト}抄^{ノヨコト}云^{ノヨコト}依^{ノヨコト}国^{ノヨコト}月^{ノヨコト}録^{ノヨコト}也^{ノヨコト}蟬^{ノヨコト}丸^{ノヨコト}ハ^{ノヨコト}仙^{ノヨコト}人^{ノヨコト}なり^{ノヨコト}と^{ノヨコト}ま^{ノヨコト}
 博^{ノヨコト}雅^{ノヨコト}依^{ノヨコト}不^{ノヨコト}随^{ノヨコト}身^{ノヨコト}羽^{ノヨコト}比^{ノヨコト}聖^{ノヨコト}也^{ノヨコト}且^{ノヨコト}以^{ノヨコト}譜^{ノヨコト}清^{ノヨコト}歸^{ノヨコト}と^{ノヨコト}又^{ノヨコト}同^{ノヨコト}作^{ノヨコト}の^{ノヨコト}曲^{ノヨコト}
 今^{ノヨコト}代^{ノヨコト}を^{ノヨコト}之^{ノヨコト}外^{ノヨコト}彼^{ノヨコト}者^{ノヨコト}云^{ノヨコト}慥^{ノヨコト}不^{ノヨコト}覺^{ノヨコト}悟^{ノヨコト}但^{ノヨコト}子^{ノヨコト}歲^{ノヨコト}と^{ノヨコト}と^{ノヨコト}を^{ノヨコト}
 聖^{ノヨコト}と^{ノヨコト}云^{ノヨコト}す^{ノヨコト}僻^{ノヨコト}説^{ノヨコト}り^{ノヨコト}れ^{ノヨコト}琴^{ノヨコト}を^{ノヨコト}彈^{ノヨコト}と^{ノヨコト}と^{ノヨコト}云^{ノヨコト}は^{ノヨコト}傳^{ノヨコト}へ^{ノヨコト}り^{ノヨコト}る^{ノヨコト}
 と^{ノヨコト}後^{ノヨコト}頼^{ノヨコト}ら^{ノヨコト}む^{ノヨコト}と^{ノヨコト}を^{ノヨコト}僻^{ノヨコト}る^{ノヨコト}也^{ノヨコト}流^{ノヨコト}泉^{ノヨコト}啄^{ノヨコト}木^{ノヨコト}の^{ノヨコト}曲^{ノヨコト}世^{ノヨコト}亦^{ノヨコト}傳^{ノヨコト}是^{ノヨコト}家^{ノヨコト}
 曲^{ノヨコト}也^{ノヨコト}如^{ノヨコト}何^{ノヨコト}
 或^{ノヨコト}の^{ノヨコト}童^{ノヨコト}我^{ノヨコト}ハ^{ノヨコト}泣^{ノヨコト}時^{ノヨコト}と^{ノヨコト}堯^{ノヨコト}下^{ノヨコト}ま^{ノヨコト}れ^{ノヨコト}ハ^{ノヨコト}又^{ノヨコト}依^{ノヨコト}重^{ノヨコト}お^{ノヨコト}還^{ノヨコト}也^{ノヨコト}
 今^{ノヨコト}も^{ノヨコト}や^{ノヨコト}あ^{ノヨコト}の^{ノヨコト}た^{ノヨコト}く^{ノヨコト}も^{ノヨコト}あ^{ノヨコト}る^{ノヨコト}が^{ノヨコト}あ^{ノヨコト}る^{ノヨコト}と^{ノヨコト}云^{ノヨコト}は^{ノヨコト}ぬ^{ノヨコト}も^{ノヨコト}あ^{ノヨコト}る^{ノヨコト}は^{ノヨコト}
 後^{ノヨコト}撰^{ノヨコト}み^{ノヨコト}ら^{ノヨコト}れ^{ノヨコト}は^{ノヨコト}は^{ノヨコト}と^{ノヨコト}わ^{ノヨコト}り^{ノヨコト}又^{ノヨコト}相^{ノヨコト}攻^{ノヨコト}の^{ノヨコト}用^{ノヨコト}は^{ノヨコト}亦^{ノヨコト}重^{ノヨコト}也^{ノヨコト}
 を^{ノヨコト}傳^{ノヨコト}り^{ノヨコト}て^{ノヨコト}ま^{ノヨコト}り^{ノヨコト}る^{ノヨコト}み^{ノヨコト}ゆ^{ノヨコト}さ^{ノヨコト}あ^{ノヨコト}る^{ノヨコト}人^{ノヨコト}と^{ノヨコト}を^{ノヨコト}ま^{ノヨコト}り^{ノヨコト}と^{ノヨコト}わ^{ノヨコト}り^{ノヨコト}ら^{ノヨコト}
 今^{ノヨコト}も^{ノヨコト}あ^{ノヨコト}の^{ノヨコト}と^{ノヨコト}ハ^{ノヨコト}相^{ノヨコト}攻^{ノヨコト}の^{ノヨコト}用^{ノヨコト}は^{ノヨコト}亦^{ノヨコト}重^{ノヨコト}なり^{ノヨコト}と^{ノヨコト}わ^{ノヨコト}り^{ノヨコト}面^{ノヨコト}を^{ノヨコト}

或東^{クワン}之^{カン}子^ミ士^ミ彈^ミ正^ミ女^ミ弼^ミ奏^ミ等^ミを^ミ行^ミら
 兼^ミ和^ミ元^ミ年^ミ正^ミ月^ミ次^ミ九^ミ日^ミ遣^ミ唐^ミ副^ミ使^ミを^ミ甘^ミ保^ミと^ミ唐^ミ使^ミ
 の^ミ四^ミ船^ミ次^ミ舟^ミ海^ミ小^ミ決^ミ一^ミの^ミ皇^ミ病^ミを^ミ依^ミて^ミ遊^ミ覧^ミし^ミ所
 り^ミ付^ミを^ミむ^ミし^ミ二^ミ月^ミ小^ミ勅^ミ一^ミて^ミ曰^ミ皇^ミ内^ミ之^ミ傷^ミ皆^ミ後^ミ會^ミて
 外^ミ境^ミに^ミ彼^ミ然^ミも^ミ急^ミに^ミ病^ミを^ミ稱^ミて^ミ因^ミを^ミ致^ミさ^ミる^ミ
 乃^ミ様^ミの^ミ泣^ミの^ミ後^ミに^ミ死^ミ罪^ミ一^ミ等^ミと^ミ改^ミし^ミを^ミ派^ミ舟^ミと^ミ
 せ^ミし^ミる^ミ一^ミと^ミと^ミ隠^ミ伏^ミ必^ミに^ミ配^ミ流^ミせ^ミし^ミま^ミし^ミ後^ミハ^ミ才^ミ一^ミ
 二^ミの^ミ船^ミれ^ミあ^ミる^ミも^ミひ^ミを^ミり^ミ大^ミ使^ミと^ミ奏^ミし^ミて^ミ改^ミし^ミ才^ミ二^ミ
 船^ミ才^ミ一^ミの^ミ形^ミと^ミ大^ミ使^ミ是^ミを^ミ奏^ミし^ミ才^ミ一^ミの^ミ船^ミを^ミ才^ミ
 二^ミ舟^ミと^ミ副^ミ使^ミ皇^ミ家^ミと^ミと^ミあ^ミり^ミを^ミ忍^ミて^ミ病^ミ
 と^ミ稱^ミし^ミと^ミ傳^ミる^ミ處^ミに^ミ幽^ミ懐^ミと^ミい^ミは^ミる^ミ也^ミ道^ミ徳^ミと^ミい^ミは^ミる^ミ

を^ミ作^ミり^ミて^ミ遣^ミ唐^ミの^ミ使^ミと^ミし^ミは^ミも^ミ相^ミ打^ミめ^ミる^ミハ^ミ忌^ミ諱^ミと
 犯^ミす^ミを^ミ後^ミ深^ミ太^ミ上天^ミ皇^ミ位^ミは^ミらん^ミと^ミ大^ミよ^ミり^ミ後^ミて^ミ此
 飛^ミ舟^ミあ^ミる^ミ一^ミ統^ミ兼^ミ和^ミ元^ミ年^ミ正^ミ月^ミ五^ミ日^ミ隱^ミ伏^ミ國^ミ小
 配^ミ流^ミと^ミい^ミは^ミる^ミ兼^ミ和^ミ七^ミ年^ミ正^ミ月^ミ五^ミ日^ミ還^ミる^ミ也^ミ貞^ミ和^ミ
 元^ミ年^ミ八^ミ月^ミ九^ミ日^ミ日本^ミの^ミ位^ミを^ミあ^ミり^ミす^ミ子
 正^ミ月^ミ十二^ミ日^ミ兼^ミ和^ミ元^ミ年^ミ正^ミ月^ミ次^ミ九^ミ日^ミ彈^ミ正^ミ太^ミ弼^ミ舟^ミ
 於^ミ仁^ミ秀^ミ二^ミ年^ミ正^ミ月^ミ十九^ミ日^ミ從^ミ三^ミ位^ミ同^ミ次^ミ二^ミ日^ミ卒^ミ也^ミ又^ミ此
 流^ミ飛^ミ舟^ミ舟^ミ母^ミ三^ミヶ^ミ兼^ミ和^ミ元^ミ年^ミ正^ミ月^ミ次^ミ九^ミ日^ミ卒^ミ也^ミ
 一^ミ舟^ミ兼^ミ和^ミ元^ミ年^ミ正^ミ月^ミ次^ミ九^ミ日^ミ卒^ミ也^ミ訓^ミを^ミ惡^ミし^ミ皇^ミ
 を^ミさ^ミが^ミし^ミと^ミい^ミは^ミる^ミ當時^ミ後^ミ深^ミの^ミ上^ミ皇^ミ位^ミを^ミあ^ミり^ミす^ミ
 舟^ミ兼^ミ和^ミ元^ミ年^ミ正^ミ月^ミ次^ミ九^ミ日^ミ卒^ミ也^ミ皇^ミ位^ミを^ミあ^ミり^ミす^ミ

僧正遍昭

俗名良岑宗貞号花山僧正又号良僧云

桓武天皇

平城天皇

嵯峨天皇

淳和天皇

仁明天皇

宗貞

由信

良岑

安世

冬嗣公同册

延暦二十年賜良岑朝臣姓法雅權僧

正元慶寺座主号視中院

深学のふとどれ海河小差人頭ゆくとしひあられ
けつりらりろ海を諫言みおりてまはさしつ小世
かもし海らさしつてむの山よれかりしつらねをら

あつたつたそ乃又れりし人海あつたつたわら
かりかりしあつりらりら海あひまるとまきてあ
みか今た花の衣みなりぬ影るまはれ被よりたふせ
天は風をぬらひらつららし女のまらさしあめん
右今ぬはまきほのまひ形をまらさしありとあれは宗貞
とのまらぬはまらぬの通昭とれまらさしありはあ
今乃宗貞とじりの天女よららるせりされは宗
かみおし思ひまらぬらひらつらららららららら
とみひらうあつたつたあえぬらららららららら
舞姫みらみららららららららららららららららら

あつたつたそ乃又れりし人海あつたつたわら
かりかりしあつりらりら海あひまるとまきてあ
みか今た花の衣みなりぬ影るまはれ被よりたふせ
天は風をぬらひらつらららし女のまらさしあめん
右今ぬはまきほのまひ形をまらさしありとあれは宗貞
とのまらぬはまらぬの通昭とれまらさしありはあ
今乃宗貞とじりの天女よららるせりされは宗
かみおし思ひまらぬらひらつららららららららら
とみひらうあつたつたあえぬらららららららら
舞姫みらみららららららららららららららららら
あつたつたそ乃又れりし人海あつたつたわら

約月令と云物よわり毎年十二月おわりなり
 大嘗會の阿斗ふつらむとそなたのたまりと為まは
 じり津御奈天宮のより乃津御奈宮は御しく
 多岐村の昔より不御と深とて深くとも
 世行らふびりひれ山の麓よりありしと云ふ
 傳りまゐると所らんとまればと云ふの中心神女
 のあわれみと云ふ御奈のまゝへおわもせて
 けつと津御奈見行ひりしと云ふおふささかぬ人
 けおよと云ふらと云ふらと云ふと云ふと云ふ
 お乃ひりありありと云ふと云ふと云ふと云ふ
 たりそれと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

乃水詠

し女おをなとめさひと云ふと云ふと云ふと云ふ
 乞むしとのとめやあれをらと云ふと云ふと云ふ
 と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 ち津風と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

陽成院

諱貞暉

在位八年清和第一

久徳天皇

清和天皇 陽成院

天曆二年九月廿九日落舒道御
 母聖太后藤原藤原子
 二條若中納言長良

貞観

十年十二月十六日降延同十一年二月一日皇太子

二歳

同十八年十一月九日受禪 九歳 元慶六年正月二

元服

十五歳 同八年二月四日讓位 十七歳 天曆三年九

月廿九日崩 十一歳 又云陽成院を二条院と号す

涉後を去せ給ひくは院おれりゆと

此の皇孫をばけりみふれは意をばけりて御す

御出おれりとのれみこはけりきりしわら院波山

尺子の川若き津のふみおなりいふれ心は海の子

思ひそめしはぬくれ心とるるはけりの子すりおり

くけりしそけりするふくく入てはけりし川の本

を橋川とれつるはけりしはけりしはけりしはけりし

下とくくはけりしはけりしはけりしはけりしはけりし

は海とるれり思て序あせ款乃ふははけりしはけりし

寒の御あめくふ面わゆるりや又子の御あふハ

おれりしそめりしめりしそめりしそめりしそめりし
つとめりし天下の結とるりおり人々もあま
はくはくはとるるるるるるるるるるるるるるるる

河原左大臣 源融 嵯峨中十二源氏母正四位下大原金子

嵯峨天皇 仁明天皇

源融 元大臣後一位号河原左大臣男中皇子

弘仁三年壬辰生淳和天皇為子栖霞觀大后之山

元和五年十一月廿七日正四位下元服日貞

觀十四年八月廿五日任元大臣仁和三年十一月十七

日後一位 即位日 周五年 寬平二年 奉政

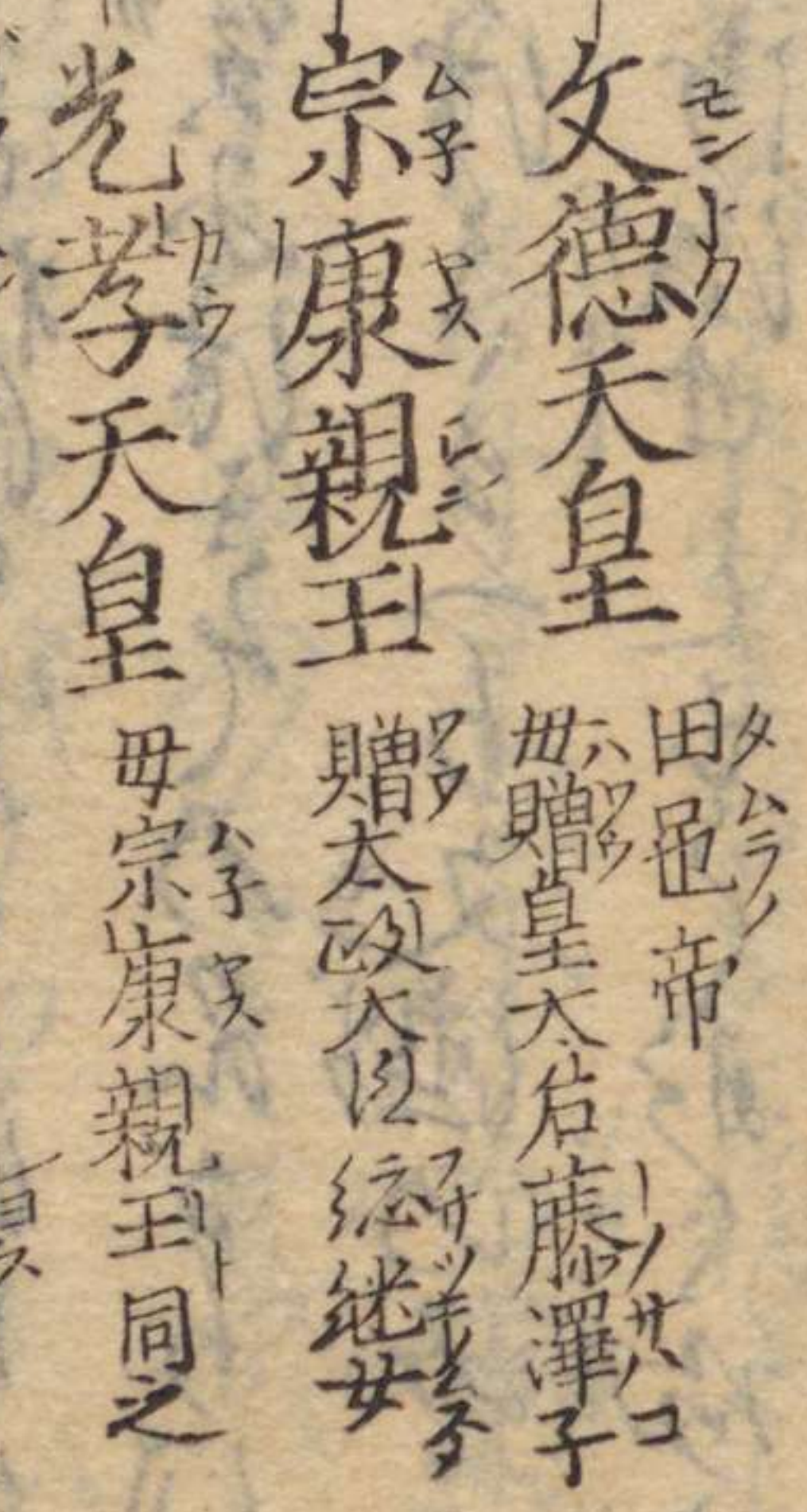
同七年八月廿五日薨七十四歳同廿八日贈正一位
 隆奥の忠よりしむる非比なき御事ありおぼしむる
 古今賢志よりあはれなり歎乃んハ上二句ハみど
 りとふんそその帝より想れんを難ゆふ
 う乱まそめしむるハみどりのあそみぞれ
 といふ後たりんるの也古今ハ見ざるま
 と行ふおぼしむるハみどりの隆奥の忠より
 りらむるもハ奥列法史記より思ふを後
 けをいふもり也後を乱まむり付く、後放よみ
 ぶくしとそ人みの帝より修勢物治みハみど
 りめありとわり

光孝天皇

諱時康

仁明才三郎子在位三年号小牧帝

仁明天皇



天長七年庚戌降誕 兼和三年七叙四品同十二年二月

元服同十五年正月常陸太守嘉祥三年及月中務

仁壽元年十一女一三品 廿二歳貞觀十六上野太守同二十二品

同十八年十月六日元慶六年七月 九十四歳 同八年正月

太宰帥同二月四日受禪 辛丑歳 仁和三八女六讓位即崩

辛丑歳八月三日荒井小牧山陵

因列文山と云ふは...
 刊稿系山也...
 法列...
 松も...
 因懐堂...
 寺建立...
 大納...
 平八中納...
 尋...
 在原業平朝臣

在在原業平朝臣
 廿四行年御

蔵人 蔵人頭 右中將 右馬頭

元慶四年正月廿八日卒

ら...
 調...
 風...
 と...
 り...
 身...
 甲...
 也...
 也...
 也...

之ぬまてりり志ひつひ家よあを紅紙く、あや
 うらう奥を神代玉をのち家よあを及らうとふ
 里ナリヒラ赤おれあさふか懐あまらて調さぬと
 きん河をさくらあさふれ八大切らりし何りふれ
 乞あつじ山サシ庄サウのま紙シ丹ニ入らま詠カノ方カ大カ概カれカあ
 乃田ノふも今らまらるる人ニあねあそ百人
 其ハ詠カノ方カ大カ概カの卦フモシキをさる人ニあのあつせし
 如カらみハむしカねとみさくらせしえりし
 あままうそと詠田ホトリ河をさるる人ニあつせしわたり
 之のくくらまればさる人ニ
 神代カあわたりや志る人ニ梅カ花カのあつせしわたり

多々タタヒヒン
 志田シ姫ヒメてそめけ世セの終シマ神カミ代トもきぬこのれさる
 又寛平クニの文フミ遊ユ涉セ幸キチ不フ立ツ原ハラ友トモ平ヘイあふ
 何ナニぬみミ詠カノ田タのほもそみまらゆ終シマ神カミ代トの終シマ
 兼ナリ平ヘイの紅ベニ葉ハのちらけさるる紅ベニのあつせし
 田タ河カを紅ベニのあつせしむしカもさるるあつせし
 平ヘイあハ何ナニぬみミをさるる川カハをさるるあつせし
 ぬ本ヌ紫ムラサキをさるるて河カハをさるるあつせし
 おら乃ノあさふとあつせしむしカもさるるあつせし

藤原フジノ敏行トシユキノ朝臣チノ

母ハハ紀キ名ナ鬼キ女メ

後ノチ五位イ上ノ

武智タチ磨マ磨マ巨勢コセ磨マ直ナ作サシ林田ハヤシ富トモ土ツチ丸マル敏行トシユキ

三河守ミカワノ 讚サメ渡ワタ守ノ 按察アサシ 陸奥リウオウ 守ノ 右ミダ兵ヘイ衛ヱ 少シ将シヤウ 日ヒ

古コ事コトゆユ美ミ由ユ記キ 右ミダ兵ヘイ衛ヱ 少シ将シヤウ 日ヒ

伊衡イヘウ 高橋下 金

伊乃之存イノノゾノみゆる浪なみもさるやあはれ海うみちりぬくらん
寛平カンヘイれ浪なみに死しさるゝの文ふみ乃のの合あはれあるる二に三に百ひゃく
八序ハツシヨ也なりゆるるるる人ひとややといいんんとと巻まみみるる浪なみとと心こころ
巻まとと巻まんんととてて浪なみのの心こころひひつつりりとと巻まみみるる浪なみ
ののううららううのの持もちめめももままじじべべととままりりああれれ是こゝはは海うみ
也なり雖なほもも伊い乃の之の浪なみのの心こころわわるる浪なみももままりりああれれ海うみ
みみそれそれととままりりとといいぬぬめめのの海うみ浪なみととままりりああれれ海うみ
もも家いへ志こゝろ海うみのの英はららけけとと死しぬぬるる何なんれれんんのの根ねええ
くくそそいいるるららああ抵たげげららくくああれれ思しひひるるかかへへ人ひとああれれ
ももうう死しぬぬるる海うみととああららわわるるああららわわるるああららわわるるああららわわるる

とと存ぞんをを持もちめめのの中ちゆうみみええととああららわわるるああららわわるるああららわわるるああららわわるる
ああららわわるるああららわわるるああららわわるるああららわわるるああららわわるるああららわわるる

伊勢イセ 伊勢イセ
内磨ウチノサ 真夏マコ
濱ハマ 家宗イヘノミヤ
継ツグ 蔭カゲ 女子メノコ

新古

伊乃之存イノノゾノみゆる浪なみもさるやあはれ海うみちりぬくらん
あの浪なみははととままりりああららわわるるああららわわるるああららわわるるああららわわるる

百人抄上

三下

けりてやあうらぬ切形うん紙いりか括造り
日にお建流ひの括かたきもさうもさうも
はんに又なすー今うらぬ今將也今流さなりん
後うらぬこれ字よ人あふん紙はかき又さ
らぬるもわりはる乃字すん紙はかき又さ
すんとい思の流りりてやあうらぬ
されん今うらぬさうもさうもさうも
ふあそわれ方を流りてやあうらぬ
り方を流りてやあうらぬ
らうらぬらうらぬ
ふらぬらうらぬ

あふんらうらぬ
しきいのさうらぬ
そ又義伴のさうらぬ
らうらぬらうらぬ

素性法師

俗名 玄利 系圖見遍照下

古傳云俗名僖時又云玄利官左近將監

或抄清和時殿上人寛平時任律師不審

今あそらうらぬ

らうの月なすらうらぬ

らうらうらうらぬ

此のつと初秋の河さうりもや秋もくれば月さ
 明もあかりさうり他派当派のさうりあたる
 秋深ふまの月と物あつた一巻乃義はあつた
 多のあて存日をたつめは秋もくれば月乃響は
 せり初さあつとく思入くわづらふべしあつた
 御情を扱くさうり方とそくは家々の取照を
 多とわくくみるも乃とくはさうりあつた
 月日なつたあつたさうり云系家つたは修理大吏
 取季つたさうり子方系大吏取補は其真法捕取照を
 也後成は取補乃子つたあつたさうり取照とくは
 多のあつたさうり神と見く金吾其後のつたあつた

二系家の乃派つたは其後のつたあつたの修文乃派
 乃つた

文屋康秀

先祖不見
字文琳

鎌敷助宗子男

右傳云陽成院御時人

或中御言
朝東子

東秋下巻

是貞のみこのあれさ合乃あつたさうりあつた
 了河さうりみあつたさうりあつたさうりあつた
 多のあつたさうりあつたさうりあつたさうりあつた
 多のあつたさうりあつたさうりあつたさうりあつた
 多のあつたさうりあつたさうりあつたさうりあつた
 多のあつたさうりあつたさうりあつたさうりあつた

の氣をれむらぬむらぬよふとともみわれ
 ももむむのむらむらむらむらむらむら
 ききとむらむらむらむらむらむらむら
 なむらむらむらむらむらむらむらむら
 せむらむらむらむらむらむらむらむら
 てむらむらむらむらむらむらむらむら
 とむらむらむらむらむらむらむらむら
 かむらむらむらむらむらむらむらむら
 大いむらむらむらむらむらむらむらむら
 遊子楼中霜月夜 秋葉只為一人長
 大底に時心抱若 純沖腸断是秋天

菅家

北野天神

右大臣正三位右大将

贈大政大臣正二位

天穗日命

天照大神御子

出雲臣 土師連等祖

天穗日命十四世孫野見宿禰岳仁天皇御宇賜土師臣姓三世孫身臣行
 德天皇御世改賜土師連姓十二世孫古人等天保元年奉五改賜菅原姓

宇庭

古人

清公

是善

菅家

勤解由長官

左中弁

文德清和侍讀

阿波守侍部下 遠郊り 待讀 女音博望 策大内記學政
 再授侍讀 冊三木後三刑名
 阿波守侍部下 遠郊り 待讀 女音博望 策大内記學政
 再授侍讀 冊三木後三刑名
 阿波守侍部下 遠郊り 待讀 女音博望 策大内記學政
 再授侍讀 冊三木後三刑名



かゝるもくはくもむねのまよしくゆるらげり
 ままもれをえりてぬれぬれとけり
 さきぬとむらさきも紅紫の輝とそ
 伊とそらも向山も光海しく
 ぶ家人もまわればと多珍るもの
 つとむ向山も飯中もわり
 浪泊遇風湖中春色
 水生風起布帆新
 只見公程不見春
 被被百花榛乱矣
 比来天地一驚人
 百人一首抄上終



